

東京ガスグループ 経営ビジョン Compass2030

エネルギーとソリューションを暮らし、都市、地球の未来に

2019年11月27日、私たちは新たな経営ビジョン「Compass2030」を発表しました。

化石燃料である天然ガスを扱う国内のリーディングカンパニーとして10年後の目指すべき姿を説明させていただきます。

VISION

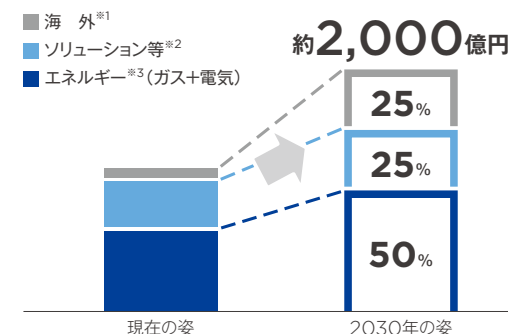
—2030の目指す姿—

次世代のエネルギーシステムを
リードしながら、お客さま・社会・
ビジネスパートナーとともに
価値を創出し続ける
企業グループを目指します。

経営指標・主要計数

	2020年度実績	2030年
利益水準	791億円	約2,000億円
CO ₂ 削減貢献(基準年2013年度)	△668万トン	△1,000万トン
再エネ電源取扱い量(年度末)	138.3万kW	500万kW
お客さまアカウント数(年度末)	1,231万件	2,000万件
天然ガス取扱い量(年度)	1,820万トン	2,000万トン

2030年の事業ポートフォリオ構成:利益水準



※1 海外: 海外におけるすべての事業 ※2 ソリューション等: 継続的なサービス契約、エンジニアリング、不動産、等 ※3 エネルギー: 国内におけるガス・電力事業



Q 「価値を創出し続ける企業グループ」とは？

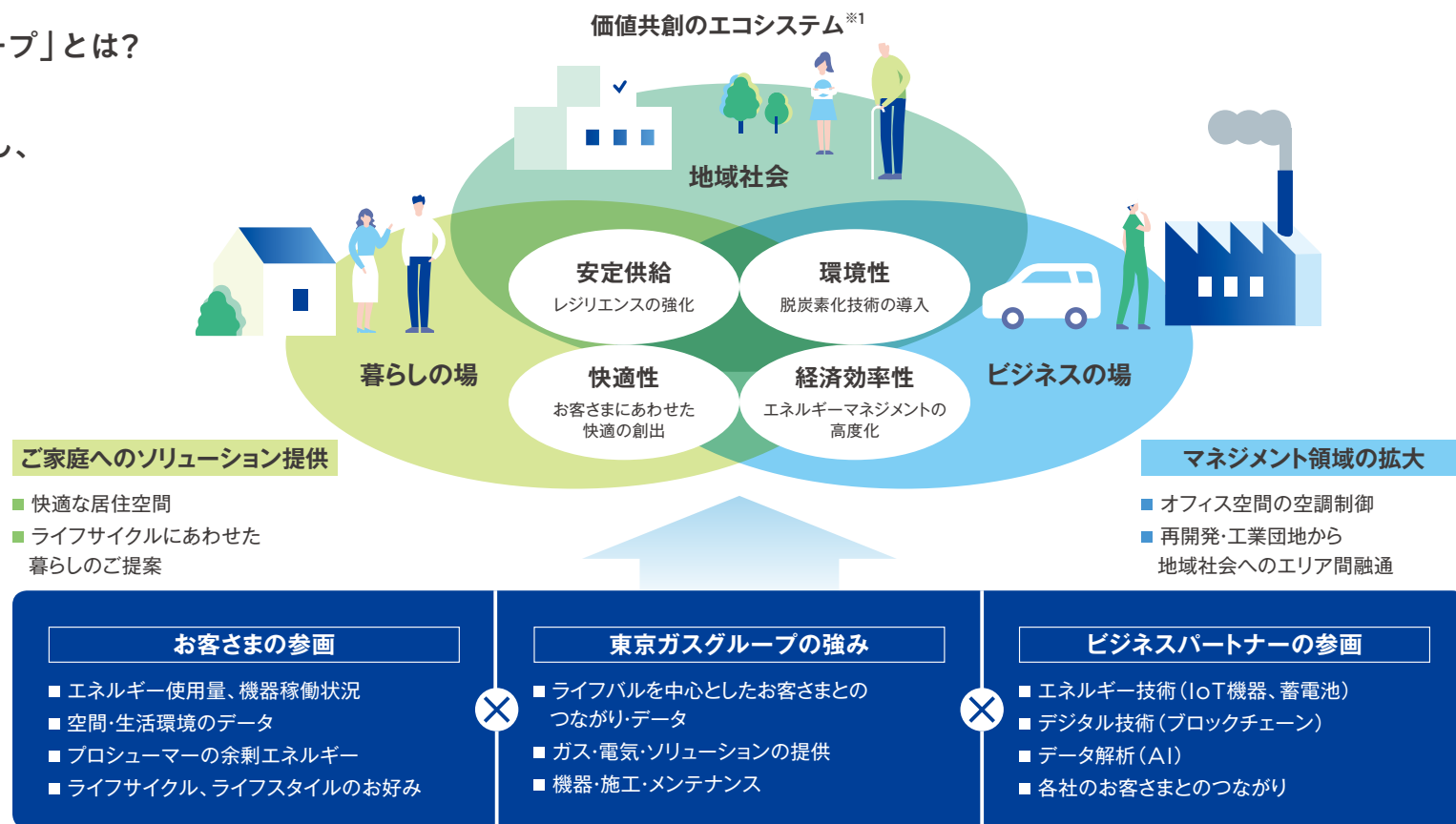
↓
A 価値共創のエコシステムを構築し、
様々なソリューションを提供する
企業グループです。

ラストワンマイル^{※2}としての東京ガスライフ
バルなど「当社グループの強み」を活用し、異
業種企業等との連携や自治体との協働といっ
た「ビジネスパートナーの参画」を推進するこ
とで、価値共創のエコシステムを構築します。

このエコシステムに「お客さま自身が参画」
することで、多様な商品・技術・サービスを柔軟
に組み合わせ、一人ひとりの暮らしから地域社
会に至るまで、様々な課題を解決するソリュー
ションを提供していきます。

※1 エコシステム:多くの企業がそれぞれの強みを持つ領域の技術・ノウハウ・
知見を持ち寄り、新たな価値を創出していく事業生態系

※2 ラストワンマイル:バリューチェーンの最終工程における人の手を介さざ
るを得ない現場業務





Q どのように「次世代のエネルギーシステム」を
リードしていくのか？

A 再生可能エネルギーと
天然ガスの調和を図ります。

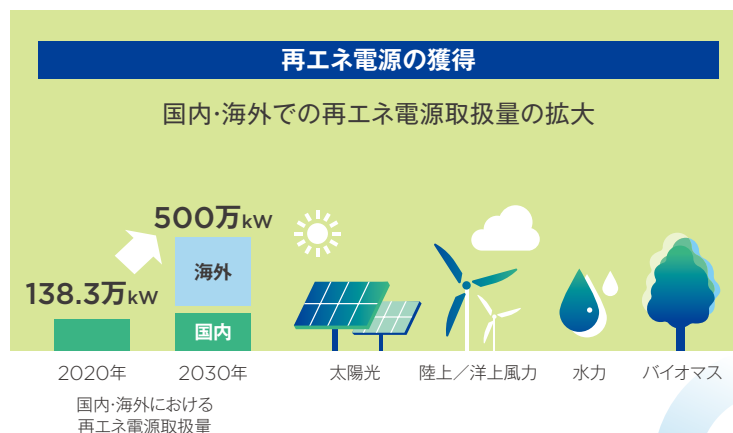
国内・海外での再生可能エネルギー電源取
扱量を拡大し、お客さま宅へのPV^{※1}や蓄電池
等を活用した新たな分散型リソースを導入し
た新ビジネスの展開やVPP^{※3}を推進します。
天候などに左右され発電量が不安定な再生
可能エネルギーの変動を制御性に優れた天然
ガスで調整します。

デジタル技術を活用し、分散型リソースに
再生可能エネルギーや天然ガス火力発電など
の大規模電源も組み合わせ、安定的かつ低廉
なエネルギー供給を実現します。

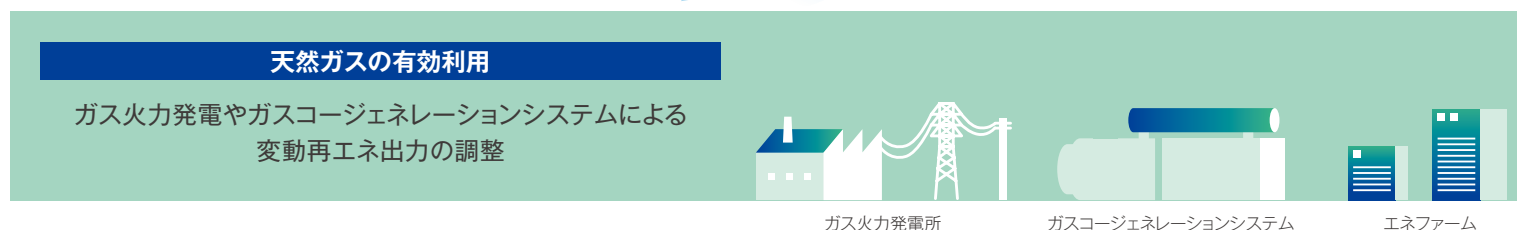
※1 PV : 太陽光発電 ※2 EV : 電気自動車

※3 VPP: 分散型電源や蓄電池などをIoTで管理し、一つの発電所のように
制御する仕組み

再生可能エネルギーと天然ガスの調和



デジタルを活用した再エネと天然ガスの組み合わせによる安定供給



Q どのように「価値を創出し続ける」のか? → A 次の4つの施策により、価値を創出し続けます。

1

LNGバリューチェーンの 変革による各機能の最大化

「トレーディング」「製造・発電」「ネットワーク」「カスタマーソリューション」のLNGバリューチェーンの各機能において、価値創出や、お客さまの拡大を目指します。

2

暮らしやビジネスの 課題解決

ビジネスパートナーとの共創により、新たなソリューションの創出を加速し、お客さまのニーズや課題を解決します。価値共創のデジタル基盤を構築し、様々なデータやAI予測を組み合わせ、個々のお客さまにあわせたソリューションを瞬時に提案します。

3

脱炭素社会への 移行をリード

天然ガスの有効利用、再生可能エネルギー電源の拡大、脱炭素化に資するコア要素技術の開発を進め、東京ガスグループの事業活動全体で、お客さま先を含めて排出するCO₂をネット・ゼロにすることに挑戦します。

4

海外への展開

LNGエンジニアリング力を活かしたLNGインフラ事業の開発、シェールガスなどの資源開発や再エネ事業への投資、LNG取引や保有アセットを活かしたLNGトレーディング拡大などにより海外における利益を3倍規模に拡大していきます。